



知的障害特別支援学校高等部卒業生への就労支援の試み

阿部 崇* 小曾根 和子** 柘植 雅義***

筑波大学では、平成25年度より知的障害特別支援学校高等部卒業生が雇用され、東京キャンパス事務室(以下、事務室)で軽作業をおこなっている。主な就労場所は事務室であるが、それ以外にも、附属特別支援学校や附属小学校等へ赴き軽作業をおこなっている。本稿では、特別支援教育研究センター教諭が事務室と連携して知的障害特別支援学校高等部卒業生に就労支援をおこなった試みの様子を報告する。

キー・ワード：知的障害 特別支援学校 卒業生 就労支援

1. はじめに

知的障害特別支援学校高等部では、生徒たちは、卒業後に一般企業や作業所等で就労し社会生活を営むことを目標に、将来の社会生活へ向けた学習を積み重ねている。そして、就労後は母校や地域の就労支援センターによる就労支援を受けながら、就労先での定着を図っている。しかしながら、特別支援学校による就労支援は在校生への支援の合間を縫っておこなわれているため、就労先を訪問し、卒業生本人の就労している様子を見学し、本人や現場担当者と面接をおこなうことにとどまることが多い。就労支援センターによる支援についても大きなトラブルがない限りは、ある一定の期間継続して一人の卒業生に対してサポートをおこなうことはあまりないと思われる。

そこで、本稿では、筑波大学特別支援教育研究センター教諭が東京キャンパス事務室と連携して、事務室に就労している知的障害特別支援学校高等部の卒業生への就労支援をおこなった取り組みについて報告する。対象者は知的障害特別支援学校高等部を2年前に卒業しており、事務室や附属大塚特別支援学校等へ赴き軽作業をおこなっている。具体的には、附属大塚特別支援学校の現場実習ノートを使用し、作業前の目標の設定と作業後の振り返りをおこない、作業面、作業態度面の2つの側面から支援をおこなった。その様子について報告する。

2. 実践の方法

2-1. 対象

事務室に就労する筑波大学附属大塚特別支援学校高等部の卒業生1名

2-2. 作業内容

免許法認定公開講座における講師資料の印刷、丁合、ホッチキス止め

2-3. 就労日時

2014年7月15日、16日、18日、22日の4日間

2-4. 就労スケジュール

時間	内容
9:00～9:10	挨拶、作業日誌記入
9:10～10:00	作業①
10:00～10:10	休憩
10:10～11:00	作業②
11:00～11:10	休憩
11:10～12:00	作業③
12:00～13:00	昼食・休憩(事務室)
13:00～13:50	作業④
13:50～14:00	休憩
14:00～14:50	作業⑤
14:50～15:00	振り返り、作業日誌記入

2-5. 就労場所

筑波大学特別支援教育研究センター研修生室

2-6. 作業日誌

作業をおこなうにあたり、附属大塚特別支援学校の現場実習ノートを作業日誌として使用した(資料)。作業①の前に、日付、その日の体調、作業内容、目標欄に記入し、作業の見通しを持たせた。また、作業⑤の後に振

*筑波大学附属大塚特別支援学校 **筑波大学附属久里浜特別支援学校 ***筑波大学人間系障害科学域/筑波大学附属大塚特別支援学校

り返りの時間を設け、目標について自己評価をし、支援者に作業日誌を提出した。支援者は目標について評価やコメントを口頭で本人に伝えると共に、その内容を日誌に記入して本人にフィードバックした。本人は再度振り返りをおこない、反省をして次回の作業に活かすようにした。作業日誌は家庭に持ち帰り、保護者よりコメントをもらい連携を図った。

3. 実践の実際

1) 1日目：7月15日

①作業内容

丁合い(図1)、ホッチキス止め(図2)

②作業面

- ・スピードはゆっくりであったが丁寧に作業することができた。
- ・印刷の落丁を見つけて報告することができた。
- ・自分が出してしまったホッチキス止めの不良品について報告することができた。
- ・丁合をした際、紙の枚数が合わないことがあった。

③作業態度面

- ・入室時に「失礼します」と言うことができた。
- ・時間を意識して作業することはできた。
- ・作業の終了時刻が近くなると頻繁に時計を見るがあった。
- ・「ハイ」ではなく「ウン」と返事をするがあった。
- ・時々、大きな声で独り言を言うがあった。
- ・支援者が研修室を退出すると、「ハーッ」と大きな声でため息をつくがあった。

④まとめ

午前中は緊張している様子であったが、集中して作業をすることができた。時々、丁合いの枚数が合わないことや、返事という言葉遣いや作業態度に改善すべき点があったが、全般的に一生懸命作業を行うことができた。作業後の自己評価では、「へんじやあいさつがきちんとできた」「ひつようなほうこくがはっきりできた」「まちがえずただしくさぎょうができた」が△、他の項目はすべて○であった。初めて使用する作業場所だったためか、振り返りの時間には「疲れた」と話していた。

2) 2日目：7月16日

①作業内容

丁合い、ホッチキス止め

②作業面

- ・昨日よりも丁合いのスピードが上がり、集中して頑張っていた。

③作業態度面

- ・昨日よりもリラックスしている様子だった。
- ・丁合い作業がもうすぐ終わりそうな状況を見て「これを仕上げたい」という発言があった。
- ・時々、「ハーッ」と大きな声でため息をつくがあった。

④まとめ

作業①に入る前、昨日の作業日誌を振り返り、時計を見るが多かったため「よそみをしない」、返事という言葉遣いが良くなかったため「ことばづかい『はい』」、の2点を目標に設定した。時計を見る頻度が減り、「はい」という返事がかえってきた。目標を意識しながら作業に取り組み、「よそ見しないでがんばっています」と本人から発言があった。昨日△がついた項目を意識して取り組むことができた。今日の自己評価は全て○であった。



図1 丁合い



図2 ホッチキス止め

3) 3日目：7月18日

①作業内容

丁合い、ホッチキス止め、数え、印刷

②作業面

・数えの仕事をおこなった。資料を10枚でひとまとめにし、いげたに組むことができた。

支援者が付箋を使って原稿を置く位置を明確にし、ボタンの脇に数字を書いた付箋を貼って、原稿を置く位置を明確にし(図3・図4)、ボタンの脇に数字を書いた付箋を貼って、ボタンを押す順番を明確にした(図5)。

給紙台に紙がなくなった時には、「紙がなくなりました」と報告することができた。見本を見せながら紙の補給方法を伝えたところ、その後は一人で紙袋から用紙を出して、補充することができた(図6)。支援者は製版した時の印刷具合を確認するだけであった。

作業を終えた時「全部自分でできた」と誇らしげな口調と表情で言っていた。

③作業態度面

・あくびが多かった。昨日、ドラマを見ていて23:00近くに就寝したとのことだった。

・休み時間に研修室の水道でジャブジャブ顔を洗うことがあった。

・11:00～11:10の休憩時間に、11:08にトイレのために退室、11:15に研修室に戻って来るがあった。

④まとめ

作業日誌の自己評価で、目標に設定した「ため息をし

ない」にだけ△、あとは○であった。原稿台に原稿を置く場所の目印をつけたり、手順がわかるようにボタンに数字をつけて示したりすることにより、初めて取り組む作業である印刷機での印刷が一人でおこなえるようになった。途中からは最終確認を支援者がおこなうだけでよかった。また、手がかりを見なくても作業ができるようになった。

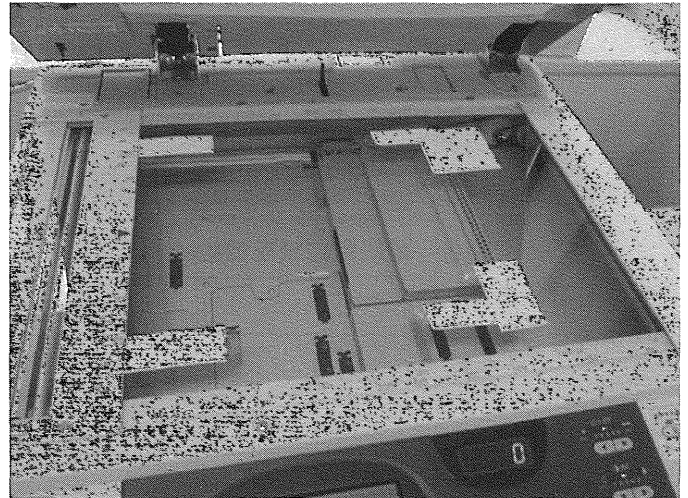


図3 原稿を置く場所の明確化

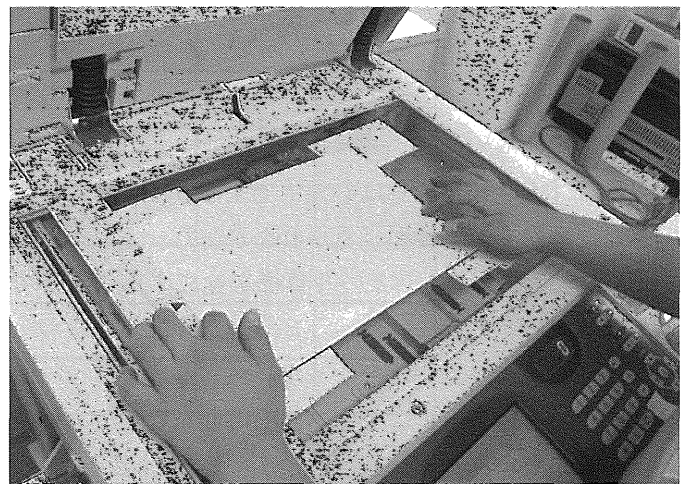


図4 原稿台に原稿を置く

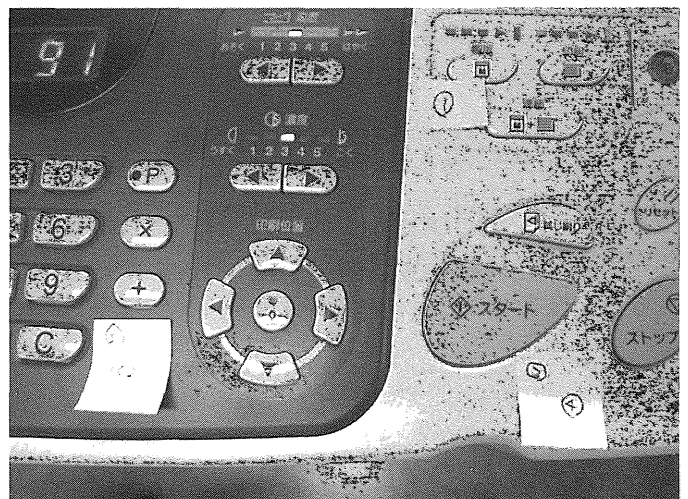


図5 押す順番を表示したボタン



図6 給紙台に紙を補給

4) 4日目：7月22日

①作業内容

印刷、丁合い、ホッチキス止め

②作業面

- ・ホッチキス止めの不良品があった。正規品と不良品を比較して不良な部分を示して確認をしたところ、それ以後は不良品が出なかった。

③作業態度面

- ・目標は「大きなため息は心の中である」であった。大きなため息をつく場面は見られなかった。
- ・「ハイと返事をする」という目標を達成することができた。
- ・あくびがあまり見られなかった。
- ・これまでとは違って、予定の作業時間を超えても作業をすることがあった。
- ・休憩時間がまだ終わらないうちに、「作業を始めていいですか」と質問することがあった。

④まとめ

- ・4日間の中で一番集中して作業することができた。
- ・支援者以外のセンターの教諭が同じ部屋で作業をしていたためか、とても楽しそうであった。また、はりきって作業する様子がいつもより多く見受けられた。

一緒に仕事をしていたセンターの教諭が退室すると「どうしたのですか?」「別の部屋でお仕事ですか?」といった発言があり、仲間と共に働く喜びが彼女の中にあるのだと感じた。

4. 考察

作業面では、印刷機を使って一人で印刷することが初めてできた。原稿台に原稿を置きやすいように置く場所を視覚的に明確にしたこともあるが、「全部自分でできた」と本人が発言したように新しい作業を覚えるには確実にできるような環境を整えて取り組むことと、それに伴う達成感が重要であると改めて感じた。振り返りの時間を設けたことも有効であったと考える。1日の反省をすることで、翌日の作業改善につながった。また、反省から得られた内容を翌日の目標欄に記入することで、目標を意識して取り組むことができた。さらに、附属大塚特別支援学校と連携して、本人にも馴染みのある現場実習ノートを使用して作業日誌をつけたことも効果的であったと考える。

作業態度面では、働く姿勢に改善が見られた。時計を頻繁に見ることが減り、時間を気にしすぎず集中して作業に取り組むことができるようになってきた。最終日の作業終了後に「今はどんな気持ちですか?」と質問したところ、「うれしかった気持ち」「ちょっと悲しかった気持ち」「また次回があればやりたい気持ち」等が挙げられた。後日、出会った時に「こんにちは。またお仕事ください。よろしくお願いします」との挨拶があった。

4日間の作業を終え、就労先である事務室にフィードバックをおこなった。その内訳は作業面と作業態度面、それぞれの様子と改善された部分、そして今後の課題について伝えた。今後、事務室での新たな作業へのチャレンジや獲得したスキルを活かして欲しい。また、特別支援教育研究センターにおいて、作業を依頼した際に、成長の様子がうかがえることを期待している。また、知的障害特別支援学校高等部卒業生の大学における就労支援について報告をおこなったが、多様な就労先での支援も検討していきたい。

資料 作業日誌

平成26年7月16日 水曜日		天気 日暮れ		
体調	よ <small>い</small> わる <small>い</small> (理由:)			
家庭から	お仕事. 深山. お礼のございます 張り切って 出社いたします おと 2日間. ようにお暇. します			
仕事	J合. 本シテ教止か.			
反省	No.	こうもく (○:できた △:もうすこし ×:できなかった)	じぶんの評価	実習先の評価
	1	ちこくなどをせず、時間をまもれた。	○	○
	2	作業の じゅんびや かたづけが きちんとできた。	○	○
	3	へんじや あいさつが きちんとできた。	○	◎
	4	ひつような ほうこくが はっきりできた。	○	○
	5	さいごまで こんきよく 作業ができた。	○	◎
	6	ざつにならず ていねいに 作業ができた。	○	○
	7	まちがえず ただしく 作業ができた。	○	△
	8	あんぜんに きをつけて 作業ができた。	○	○
	9	どうぐや せいひんを たいせつに あつかうことができた。	○	○
10	まわりのひと きょうりよくしたり なかよくできた。	○	○	
個別教育計画上の課題				
	よみをしたくない	○	○	
	こてはつがたい	○	◎	
実習先から	今日もよくかたづけ、よく水ました。昨日、「△」になったことを意識して取り組むことができた。「ハイ」という返事ができていた。時々、J合の枚数が合わないと言っていました。			

ハイ
の返事

「～が足りません」と報告してくれました。この作業をやると、J合の枚数が合わないと言っていました。

Trial of Support for the Work for Graduates of High School Section in Special Needs Education Schools of Children with Intellectual Disabilities

Takashi Abe * Kazuko Kozone ** Masayoshi Tsuge ***

* Special Needs Education School for the Mentally Challenged at Otuka, University of Tsukuba
 ** Special Needs Education School for Children with Autism, University of Tsukuba
 *** Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba